

あつという間に年明け三週間

拝復

光陰矢のごとし、と言いますが時の流れは早い。ついこの間まで**おバカなテレビ番組**ばかりを見ていたのですが、気がつくと1月も既に中盤。ちょっと焦っています（何を？）（笑）。サブプライムローンの余波は拡がるばかり。**日本の株式市場は今日（1月16日）も500円近い下落**と底が見えません。今年はいいい年になってくれるといいなあ、と静かに祈っています^^；。2008年と言えば世界中で見れば「北京



オリンピック」



←あの桜の木の話はガセだそうです（笑）

と「**米国大統領選挙**」Washingtonの年であります。どちらも今はちょっと危なっかしい国と言うのが共通点でしょうか（笑）。

今回は1月12日付の朝日新聞に掲載された、米国大統領選「**予備選予測大ハズレ、釈明に汗**」と言う記事にインスパイアされて論を進めます。今回のテーマは「選挙予測調査」です。

本題に入る前にそもそもの「米国大統領選挙」の仕組みについて触れます。と、言うのはかなり複雑な仕組みになっているからです。現在行われているのは共和党と民主党の大統領候補を決めるための予備選



挙です。先日**クリントン候補**

がニュー・ハンプシャー州で**オバマ候補**を破った、

と言うニュースはご覧になられたと思いますが、これは民主党の予備選挙です。大統領選挙のように見えてしまうのは、今回の報道では「**共和党**」の候補の報道が少ないように思います。ま、地味です（笑）。その点「民主党」は**初の「女性大統領」VS「黒人大統領**」という非常にエキサイティングな図式が出来上がっています。また、現政権の低支持率から、次の大統領選は「民主党候補の勝ち」とマスコ



ミが踏んでいるからでもあります。

←マケインって言われてもねえ（笑）



本番の大統領選は11月の第一月曜日の翌日（11月2日～8日の火曜日）に行われます。まだ、ほぼ10ヶ月以上先のことです。でも、**何で火曜日なんでしょうね？**選挙と言えば日曜日が当然と思っている私か

今のアメリカ人ってどのくらい日曜日に協会に行ってるんだろう（素朴な疑問）→



らは奇異にうつります。これは、クルマがない19世紀のころの名残で、日曜日に礼拝を済ませてから出発して投票所に全員がたどり着けるのが火曜日、と言うのが大元だそうです。これが現在にも残りほとんどの選挙の投票は火曜日に行われるそうです。ついでになんで11月か、も、農業従事者がもっとも暇な時期を選んだからだそうです。

アメリカの大統領選は**直接選挙ではありません**。選挙人を選び、選ばれた選挙人団が投票して大統領を選出します。選挙人団とはあらかじめ大統領選挙にだれを投票しているのかを明らかにしている人達のことです。その州で最も多くの投票を得た候補者はその州の選挙人団を全て獲得することが出来ます(一部例外があるのですがそれは省きます)。その選挙人団の投票を最も多く得たものが晴れて大統領に選出さ

れます。ご記憶かもしれませんが 2000 年の大統領選は  ブッシュ VS  ゴア でしたが、**国民の投票数ではゴアがブッシュを上回りましたが、実際の大統領選で勝利したのはブッシュでした**。歴史のいたずらですね、現在ブッシュ氏は株を下げっ放し、一方のゴア氏はノーベル賞を取るなど一躍時の人です。あの時、大統領選挙が直接選挙であればゴア大統領が誕生していたわけで、歴史は随分変わったかもしれません。**イラクへの介入はなかった**かもしれませんし、アメリカは**京都議定書にさっさと調印してエコな社会を目指していた**かも。「たられば」です(笑)。

さて、前置きが長くなりました。本題ですが、事件はニュー・ハンプシャー州の民主党の党大会で起きました。**結果はご存知のとおりクリントン候補がオバマ候補を小差でかわし勝利を治めました**。しかし、これが事前の選挙予測調査の結果と全く異なったのです。事前の予測ではオバマ候補が圧勝するはずだっ

米ニューハンプシャー州予備選(民主党)の得票率		
	実際の結果	ギャラップ社の事前調査
クリントン氏	39%	28%
オバマ氏	37%	41%

たのです(表をご覧ください)。

これほどの大逆転劇は起こりえない、と言うのが調査の業界の常識でした。前出の朝日新聞の記事の元記事が NY タイムズでした。インターネットで、元記事を簡単に手元にすることが出来ました。まず NY Times



←やっぱり英語の勉強は続けないと駄目ですね(反省) 読むのに苦労しました(T_T)

にアクセスをし、検索ウインドウに「2008 January 10 New Hampshire Clinton survey」と入力しただけです。本当に便利な世の中ですね。登録が必要でしたが、私はこれからいつでも NY タイムズ紙の全ての記事をただで見ることが出来ます。今更ですがインターネット恐るべし。



←結構強烈なイラストで (NY times)

事前調査(オンドリ)は「OBAMA」と叫んでいますが、実際に昇ってきた太陽は「Hillary」と皮肉っています。調査担当者はしばらく眠れなかったでしょうね。同情します。

閑話休題、なぜこんな現象が起きてしまったのか、まず四つが言えます。

1) 調査の方法論の問題ではない (記述はありませんがおそらく電話調査です)

なぜ言い切れるかと言うと同時期に共和党の党大会が行われていたのですが、こちらはきわめて正確にマケイン候補の勝利を予測していました。

2) 調査会社のソフトウェアの問題でもない (各社の結果はほとんど同じだった)

調査会社は事前に集まった調査結果をそのまま発表するわけではありません。過去の選挙結果であるとか州の特徴、実際の投票率などの複雑なファクターを組み合わせることで予測値を発表します。今回事前予測をしたのは数社ですが、どこも同じような結果となりました。つまりオバマ候補の楽勝、と発表していました。

3) 投票日当日になって候補者を決定した人の多くがクリントン候補を選んだ、わけではない

出口調査によれば、投票日当日に候補者を決定した人が 17%おり、その内訳はクリントン候補に有利であった。しかしその差はクリントン候補に 39%、オバマ候補に 36%ということで、やはり劇的な差を生む要因にはなっていない。17%の3%の差ですから、ほとんど影響を与えない数字です。

4) 異常に高い調査協力率が事前の予測を狂わせた、可能性はある。

初の「女性大統領」VS初の「黒人大統領」と言うトピックス性がある選挙。有権者の関心も高く、結果として調査への協力率が高くなった。これは考えられる仮設です。異常に高い協力率が過去のデータと全く違った結果を生み、違った予測をもたらした。ただし極端な結果を説明するのは難しい。

なぜ調査日から投票日に劇的な変化が起きたのか。まだよくわかりません。

米ラスムセン・レポート社はコメントを以下のようにしています (朝日新聞の記事から引用)

①クリントン候補が見せた涙などで最終盤に変化が現れた (調査時点では分からなかった)

②クリントン氏への支持を過小評価した (氏への支持はやや柔らかめと判断)

③無党派層の票がオバマ氏よりも共和党のマケイン氏に流れた (???)

どうでしょうか、「涙」以外はあまり説得力を感じないのは私だけでしょうか (笑)。

NY タイムズ紙によると

①所得や教育水準が低い白人は調査を拒否することが多い

②こうした人々は黒人に対して好意的ではない

また米ギャラップ社は (朝日新聞記事から引用)

「白人は世論調査で黒人に投票すると回答しながら、実際は投票をしないと言う議論がある」(笑)。

もともと、ニュー・ハンプシャー州とはどう言う州なのでしょう。調べました。「ウィキペディア」に



←こんなところにあったのですね (笑)

よるとまず、場所。こんなに端っこだったのか (笑)。

続いて人種別人口構成。

白人 95%！！ ヒスパニック 2%、アジア人 1%、黒人 1% **あれあれ、おいおい** (笑)。

このことは新聞記事やテレビの報道は全く伝えていません。私も調べて力が抜けました。調べてはいませんが**おそらくこの州の知事と上院議員と下院議員は全員白人でしょう。**

どうも NY タイムズ紙とギャラップの後付けの仮説が有力に見えてきます。



また、テレビ等で報道された「**クリントン候補の涙**」は直前のプロパガンダとしては最高のパフォーマンスであった可能性があります。**劇場型選挙**ですね。これは調査では予測できない。

今回の現象の解き明かしを試みました。「**白人の投票行動**」が影響力を持ちつつ、「**クリントン候補の涙**」が大きなファクターとして生み出した、結果だったのではと思います。

実は私は 10 年以上前に衆議院の選挙予測調査を某報道機関から委託され実施したことがあります。投票日の一週間前の情勢調査でしたが、その結果は非常に投票結果と強い相関を持っていました。本来選挙調査はあまり外れないものなのです。90%は当たります。それ以外は拮抗していて分からない。それだけに今回の「**ニュー・ハンプシャーの奇跡**」は調査業界で長く語り継がれる現象となるでしょう。

いずれにしても大統領選挙はまだ始まったばかり。今後南部の州（黒人比率が高い）などでの予備選の結果は全く予断を許さないと思います。初の「女性大統領」VS 初の「黒人大統領」どちらを選ぶにしても個人の価値観が大きく投票行動を左右すると思われます。たとえば「政策は好きだけど女はいやだ」とか「政策は大好きだが黒人はいやだ」と言う類です。**ジェンダーと人種差別と政策の葛藤**です。アメリカの選択はいかに？注目は 2 月 5 日の **Super Tuesday** です。しゃれですけど、super-choose day だ



←「チュー」ズデイ。お後がよろしいようで (笑)

から火曜日だと言う与太話は忘れてください (笑)。無論ねずみ年だからでもありません (笑)。

今回は 2 月上旬ごろ。テーマは未定です（毎回テーマを見つけるまでに四苦八苦） (笑)。

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県県戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

(配信を希望されない方は上記メールアドレスまでご連絡をお願いします)